

フクタニユース



発行

(株) ..

砕石部

新年度を迎え、当社においても人事異動を実施しました。佐藤一男さんが雇用延長期間満了により退職、大久保貴弘さんが福田運送へ異動することとなり、砕石部は十二名の体制でスタートすることとなりました。

人や組織は、その時代に合わせた機能やサイズが求められています。自在に対応できる柔軟性のある組織であるべきでしょう。

しかし、変わってならないものがあります。私達はそれを「誠実」であり、「信頼」であると考えます。こちらからも守るべきことを見失うことなく、変わっていくフクタを宜しく願っています。

津軽半島の今別町に向う県道14号線今別蟹田線があります。辺りは積雪なのに、この道路は常に水浸しで凍結する様子がない！？よく見ると、道路の端と中央線の3箇所穴が開いていて散水していました。調べた所、消雪パイプ(道路に埋め込んだノズルから地下水を噴射する除雪・融雪装置)というものだったのです。なんとこの装置は、柿の種で知られる新潟県長岡市の浪花屋製菓の創業者である今井與三郎さんが、周囲には雪が積もっているにも関わらず、地下水の滲みだしている箇所にだけ雪がないことに目をつけ、考案したんだそうです。まさか、お菓子屋さんが・・・。

比較的最近開発されたもので、道路の両端に一定の間隔で設置されている。

しかし、この消雪パイプは多くの弊害も生み出した。地下水の汲み上げ過ぎによる地盤沈下、青森市では港に近い青森駅前帯の融雪水に海水が含まれており、特に頻繁に通行する、バスやタクシーの車体の腐食など、開発当初の消雪装置は鋼製が多く赤錆・腐食などが原因で、装置自体の破損や道路を汚すなどの弊害もでてきているらしく、その為の対策や開発が現在進められているようです。

また、地球温暖化対策として注目されている『打ち水』に着目している団体が、これを消雪パイプを使って一斉に広範囲に打ち水をすれば、街全体をクールダウンできるのではないか？と考えているそうです。

生活のふとした思い付きがいろんな知恵を生み出すのだと思いました。

ナニコレなんとかというテレビを見ていたら、浄法寺の「えろす」を紹介していた。「江牛」と書いて「えろす」と読む。地名である。アイヌ語のエオルシ(崖)が語源だそうだ。筆者が入社した頃の頃、浄法寺の地名はスワヒリ語のように聞こえた。「マライバ(馬洗場)」「シモガテ(季ヶ平)」「ケンシヨ(海上)」「ホゴ(本郷)」「スッペ(尻平)」等々。同じ日本人なのに口語になるとチンプンカンプンなのである。先日の電話の出来事。「〇×建設のケンネンダイと申します」ケン・ネン・ダイ???要件もそこそこどういう字を書くんですかと聞いてしまった。「見年代」と書くそうだ。電話が終わっても「ケンネンダイ」が頭から離れない。電話番号検索ソフトで珍名を調べてみると全国に9軒、そのうち岩手に7軒あるようだ。希少動物に出会ったみたいな感じである。(見年代さんゴメンナサイ)

ローカルでマイナーで希少なものに隠れた価値があるのだ、というお話でした。

いよいよ新年度のはじまりです。でも、全く良いことは耳にしません。それでも、自分達が今出来ることを精一杯頑張っただけある製品と、お客様優先のサービスにつくし、皆で今を乗り切っていくと必ず得るものがあると信じて仕事をするようにと、弊社では社長、また専務より訓示がありました。頑張らなきゃ！と改めて気持ちを引き締めて・・・今以上の の砕石とサービスを提供していけるよう努めます。

◇ 追 伸 ◇

今回墓石のチラシを入れさせていただきました！当社のサービス精神旺盛の営業マンがご相談にのりますので宜しくお願いいたします。

たて続けにお菓子をいただく機会があった。一個は東京みやげの定番『ひよこ』でもう一個は何種類かの詰め合わせである。その詰め合わせの中に『ひよこ』のそっくりさんがあった。デザイン、焼き加減、味も区別がつかない。がん作もここまでやるとほほえましい。